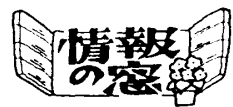


ISAHP 2005/IFORS 2005 に参加して



尾崎都司正(名古屋学院大学), 大屋 隆生(電力中央研究所), 杉浦 伸(名城大学)

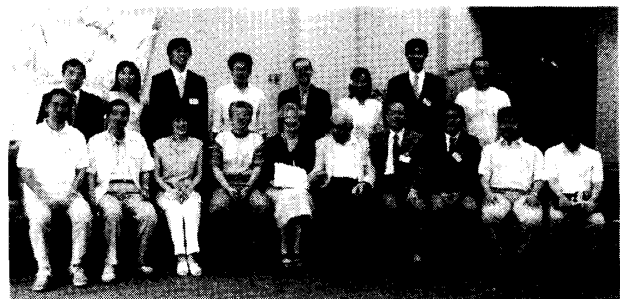
2005年7月8日から10日までのISAHP 2005に参加した。ISAHPは2年に一度開催されるAnalytic Hierarchy Processの最大規模の国際シンポジウムである。今回で8回目となり、前回のインドネシア・バリ島のISAHP 2003につづき、太平洋に位置するアメリカ・ハワイ島のハワイ大学で開催された。

ハワイと聞くと多くの人々がリゾート地を想像されるが、会場のハワイ大学はワイキキビーチから離れ、ホノルル空港からタクシーで30分ほどの後背は山に囲まれたところであった。参加者は日本からの16名を筆頭に、アメリカ、カナダ、オランダ、中国など世界各地から80名ほどであり活発な討議が展開された。

シンポジウム初日は、実行委員長のJason Lavy先生(ハワイ大学)の開式挨拶の後、木下栄蔵先生(名城大学)が基調講演をされた。つづいてPo-Lung Yu(Chiao Tung 大学)、Luis Vargas(ピッツバーグ大学)両先生の講演の後、ハワイ大学学長Linda Johnsrud先生やハワイ大学政策科学部教授Richard Chadwick先生の歓迎挨拶が続き、メインホストであるThomas L. Saaty先生(ピッツバーグ大学)の招待講演が行われた。

午後からはセッションごとに3会場に分かれて、AHP理論、技術と工業の分野、環境と開発の分野の発表が行われた。AHP理論の分野では小澤正典(慶応大学)、佐藤祐司(三重中京大学)、篠原正明(日本大学)、西澤一友(日本大学)、神田太樹(西部文理大学)らの先生方が発表された。また、他に金融リスクマネジメント、生産管理へのAHPの適用事例についての発表もあった。

シンポジウム2日目は午前中にClaudio Gauruti(Fulcrum Engineering Ltd)、Isabel Spencer(Fulcrum Engineering Ltd)先生らの講演の後、各セッションでは社会資本・経済政策決定、戦略意思決定と企業創成、AHP適用事例などの分野の研究発表があった。日本からは白井清治(山武ビルシステム)、藤田真一(環境人口研究所)、米本和良(河村電機)先生方の発表があった。午後からは参加者全員によるマ



Saaty教授を囲んで(ハワイ大学にて)
写真提供 尾崎都司正先生(名古屋学院大学)

リタイムミュージアムやアロハタワーへの観光ツアーが企画されていた。夜にはバンケットが催され、豪華な料理とバンドによる音楽、美女によるハワイアンダンスを堪能した。バンケットの終わりには、講演者や発表者に対する表彰が行われ、日本人としては基調講演を行った木下栄蔵先生とビルの空調管理にAHPを適用した白井清治先生の2名が表彰された。

シンポジウム3日目は、6人のパネリストによるパネルディスカッションが大講堂で行われた。AHPの適用範囲や、AHPを利用する際の技術的な質問が会場から上がり、盛んな議論や質問が繰り広げられていた。パネルディスカッションの後には閉会式があり、シンポジウムが無事に運営されたこと、今後のAHPの発展を祈ってISAHP 2005は閉会した。次回の第9回は2007年、南米チリのサンチャゴで開催される予定である。(文責 杉浦伸)

ハワイで行われたIFORS 2005(7月11日~15日)において、Thomas L. Saaty教授(ピッツバーグ大学)、Diederik J. D. Wijnmalen氏(TNO Organization for Applied Scientific Research, オランダ)をChairとしてAnalytic Hierarchy/Network ProcessのInvited Clusterが11日、12日に行われた。招待発表は、名城大学の木下教授がChairの二つのセッションを含む七つのセッションで行われ、合計29件の招待発表があり、OR学会の研究部会として長期に研究活動を行ってきた成果もあり日本からは12件の発表があった。(文責 大屋隆生)